

Ⅱ 研究の概要

佐賀市立小中一貫校北山校 【学力向上】

1 研究主題

自ら学び・考え、意欲的に人と関わる児童生徒の育成
～小中一貫教育と各種交流活動を取り入れて～

2 主題設定の理由

本校は、校舎一体型小中一貫校として平成20年に開校し、校務分掌や校時限等の工夫・改善を図り、学校運営を円滑に行いながら、小学校から中学校の9学年を4（前期）・3（中期）・2（後期）の3ブロックに分け、小中一貫教育の研究を進めてきた。学校教育目標を、「感謝・絆・全力～小中一貫教育と各種交流活動によって自主・自立に向かう児童生徒の育成～」とし、その達成のために、「学びを鍛え、心を鍛え、人間を鍛える」ことで、「生きる力」を培い、自主・自立に向かう児童生徒を育むことを目指している。

また、小規模校及び準へき地校である。児童生徒一人ひとりには真面目で規律正しい。しかし、小規模校ゆえに人間関係が固定化し、人間関係構築力を十分に身に付けぬまま9年間を過ごす可能性がある。

そこで、平成26年度より次の①②のような手だてをとって研究を進めてきた。①直接的な交流学習の機会を増やす。②オーストラリアの Lismore 校（以下、リズモア校と表記）との交流経験を生かして、遠隔地交流実施による交流学習の場を国内外に広げた。さらに、平成27年度からは、オーストラリアの Shepparton 校（以下シェパトン校と表記）とも交流している。これらの交流活動におけるコミュニケーションを通して話し合い活動での基礎的・基本的知識・技能を活用する力の育成を図っている。しかし、課題として論理的思考力が十分に育成されていないことが挙げられる。その手立てとして、次の①②を平成29年度から重点的に取り組んでいる。それは、①「北山校授業モデル」を意識した授業実践と、②思考力の6項目（比較、順序、類別、理由付け、定義付け、推理）に着目した論理的思考力の育成である。

昨年度の研究の成果としては、「北山校授業モデル」の定着により、児童生徒が見通しを持って授業に臨むことができるようになり、自ら主体的に学習しようとする姿が見られた。また、直接交流や遠隔地交流を充実させたことにより、児童生徒の新しい人間関係を築いていこうとする意欲が高まった。さらに、交流授業の回数を重ねるごとに、プレゼンテーション能力、質問力、応答力などの表現の向上が見られた。

今年度も引き続き、言語活動の充実につながる場としての直接交流やオーストラリアとの遠隔地交流を充実させることにより、プレゼンテーション能力や質問力、応答力などコミュニケーション能力が高まり、より双方向的（インタラクティブ）な授業展開が期待できる。また、そのような体験を通して、人間関係構築力・調整力が高まる。それとともに、これまでの授業の中で個人思考や集団思考の場を設定して深めてきた思考力に加えて、判断力・表現力がより高まり、基礎的・基本的知識・技能を活用する力の向上を図ることができるであろう。そのことが自ら学び・考え、意欲的に人と関わる児童生徒の育成となり、引いては学力の向上につながると考え、上記主題を設定した。

3 論理的思考力を培う授業づくり

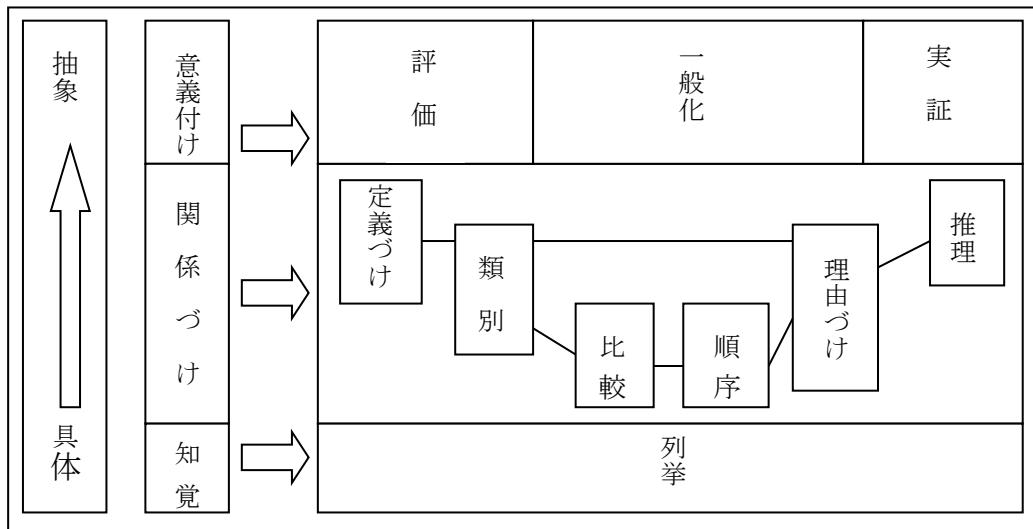
現在の学習指導要領では、育成する学力として

・基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させる。

- ・習得した知識・技能を活用し、思考力・判断力・表現力等を育成する。
- ・主体的に学習に取り組む態度を養う。

の3つを重要な要素として挙げ、中でも、思考力・判断力・表現力等の育成を重視し、思考力を「言葉を手がかりとしながら論理的に思考する力」として、「認識力や判断力などと密接にかかわりながら、生きる力として期待される、新たな発想や思考を創造する原動力となるものである。」としている。

櫻本明美氏は、「小学校から中学校の段階では、思考は具体から抽象に向かって伸びていき、そのなかでも、特に『関係付ける力』を育てるべき」だとして、「関係付ける力」を構成する6項目（定義付け、類別、比較、順序、理由付け、推理）の相互関係を【図1】のように整理している。



【図1】

そこで、本校では、本校の課題から特に、論理的思考力の育成をめざし、この櫻本明美氏が提唱する「関係づける力」を思考力の6項目【表1】としてとらえ、研究を進めてきている。

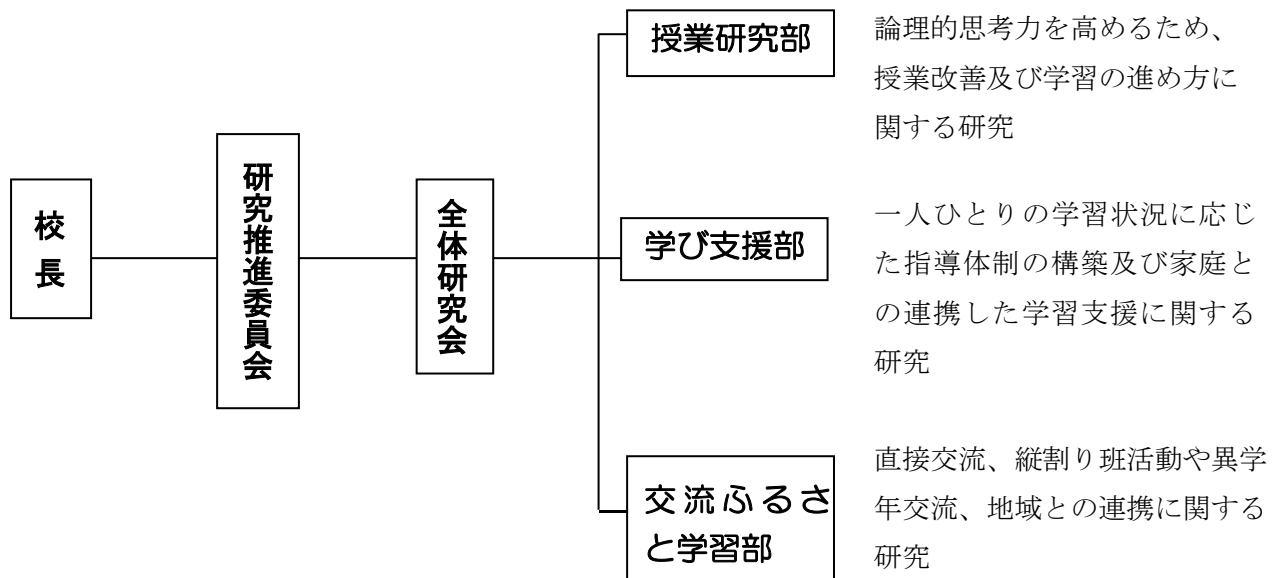
実際の授業では「北山校授業モデル」による「考える段階」「深める段階」において、「個人思考」「集団思考」の活動を中心に、「思考力の6項目」のいくつかの項目に焦点をあて、児童生徒の思考力の育成を目指している。

【表1】思考力の6項目

櫻本明美氏：説明的表現の授業－考えて書く力を育てる－明治図書より一部引用

項目	内容	具体的な言語表現例
比較	いくつかの物事を同じところ違うところ似たところなどに目を付けて比べ性質や特徴を明らかにする力	～の方が、～に比べて、どちらも、共通点は、相違点は
順序	物事の手順、時間、空間、因果、関心の強さや重要さなどについて順序づける力	まず、最初に、次に最後に、だんだん
類別	目的に合う観点を決めて、いくつかの物事を他と区別したりまとめたりする力	～の点で～、どれも他にも、これらは
理由付け	物事の結果を引き起こした原因、判断を下した主な理由、連鎖や循環をなす因果関係を明らかにする力	なぜならば～だから、～なので、～のために
定義付け	物事を抽象化して表したり、簡略に表したりする力、また、そのような言葉の意味内容を明らかにする力	～というのは、～からすれば、まとめると
推理	知識や経験をもとにして「知らない、分からない、これから」などの事物について筋道立てて推し量る力	もし～だったら もしかしたら～だろう

4 研究の組織



5 研究の内容と方法

研究の内容	研究の方法	目指す姿
言語活動を充実させ、論理的思考力を高める	思考力の6項目のキーワードを活用した授業展開により児童生徒の説明力を高め、教師の課題提示力・発問力を高める	自分の考えを伝え合い、深め合う児童生徒
直接交流学習をコミュニケーション能力の育成に生かす	大規模校や小規模校、県立ろう学校との交流学習を通して、人との接し方を身に付けさせる	自分から話しかけ、友だちになろうとする児童生徒
海外との交流学習をコミュニケーション能力の育成に生かす	海外との交流を通して、よりインタラクティブな授業展開モデルを開発する	プレゼン力、質問力、応答力など基礎的・基本的知識・技能を活用する力を身に付けた児童生徒
学習の手引きの見直しを図り、家庭学習習慣の確立を目指す	個人カルテを充実させ、学習の手引きに記載した家庭学習時間のめやすや自学ノート活用の具体例を手がかりに自らテーマを決めて学習に取り組ませる	主体的に家庭学習に取り組む、自立した学習者としての児童生徒

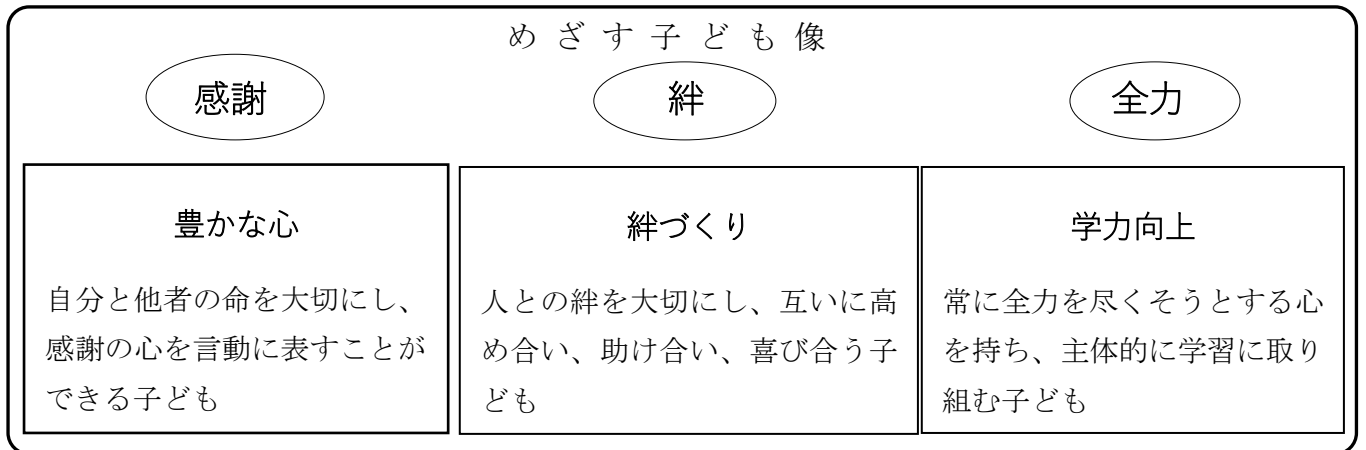
6 期待される研究の成果

- (1) 論理的思考力育成を通して、自分の考えを伝え合う力や深め合う力が高まる。
- (2) 大規模校等との直接交流の場を通して人と関わる力が高まる。
- (3) 海外との授業の機会を通してプレゼン力、質問力、応答力などを身につけることができる。
- (4) 学習の手引きや個人カルテ、自学ノートの活用により、家庭学習の充実を図り、主体的に家庭学習に取り組む、自律した学習者としての児童生徒の育成ができる。

7 研究構想図

学校教育目標

感謝・絆・全力
～小中一貫教育と各種交流活動によって自主・自立に向かう児童生徒の育成～



《 研 究 主 題 》
自ら学び・考え、意欲的に人と関わる児童生徒の育成
～小中一貫教育と各種交流活動を取り入れて～

<p style="text-align: center;">授業研究部</p> <p>◎授業研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「北山校授業モデル」の確立 ・「学習過程」のカード利用 ・めあての設定と振り返りの関連 ・ペア、グループ活動 ○言語活動の充実 ○論理的思考力の育成（思考力の6項目） ○遠隔地交流学习の研究（リズモア校・シェパトン校） ○地域公開授業 ○人間関係構築力をつける「北山コミュニケーション」 ※アンケート集計と分析 	<p style="text-align: center;">学び支援部</p> <p>◎一人一人を支援する方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ○個人カルテの充実・活用 ○家庭学習の定着と家庭との連携 ・家勉強がんばろう週間の取り組み（小学部） ○自学ノートの活用 ○学習の手引きの活用 ○学級づくり ○辞書の活用 ○人間関係構築力をつける ※アンケート集計と分析 	<p style="text-align: center;">交流ふるさと学習部</p> <p>◎直接交流学习の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○他校との交流学习（城北中、北山東部小、県立ろう学校等） ○縦割り班活動の充実 ○異学年交流授業 <p>◎ふるさとを学ぶ取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域教材活用授業 ○地域との連携 ○人間関係構築力をつける ※アンケート集計と分析
--	--	--

6 研究のあゆみ

【平成31年度】

月	日	項 目	内 容
4	1	第1回研究推進委員会	打ち合わせ（研究主任・副主任・校長・副校長・教頭・教務）
4	2	第1回全体研究会	今年度の研究、授業モデルの確認、研究組織、研究の年間計画
4	15	第2回研究推進委員会	今年度の研究について 指導案形式について 全体授業研究会とその授業者確認 各部の取り組み
4	17	第2回全体研究会	指導案形式 全体授業研究会とその授業者確認 各部会（取り組みや年間計画について）
5	7	第3回研究推進委員会	公開授業の提案 各部の取り組みについて部長から提案
5	8	第3回全体研究会	公開授業の提案 各部の取り組みについて
6	3	第4回研究推進委員会	全体授業研究会準備
6	5	第4回全体研究会	全体授業研究会1回目（7年英語 牛島 英里教諭ALT Patrick Dodgson） 指導助言 横山 千晴先生
6	24	第5回研究推進委員会	全体授業研究会準備
6	26	第5回全体研究会	全体授業研究会2回目（4年算数 古賀 梓教諭） 指導助言 中村 尚志先生
7	29	第6回研究推進委員会	各部からの提案 地域公開授業・学校訪問授業について
7	31	第6回全体研究会	各部からの提案 地域公開授業・学校訪問について 各部会 個人カルテ 指導案作成
9	24	第7回研究推進委員会	全体授業研究会準備
9	25	第7回全体研究会	全体授業研究会3回目（9年数学 阿部 昌己教諭） 指導助言 岡 英俊先生
9	30	第8回研究推進委員会	授業研究部より「北山コミュニケーション」提案 地域公開授業について
10	2	第8回全体研究会	授業研究部より「北山コミュニケーション」提案 学校訪問について 地域公開授業準備など
10	5	土曜授業	地域公開授業
11	5	第9回研究推進委員会	講師招聘による研修会 研究のまとめについて
11	6	第9回全体研究会	講師による「新指導要領における学習評価」研修会研究のまとめについて

1 2	1 6	第10回研究推進委員会	研究のまとめについて 各部より 友愛プリントについて
1 2	1 8	第10回全体研究会	研究のまとめについて 各部より 友愛プリントについて 各部会
1 2	2 4	第11回研究推進委員会	各部から 来年度について
1	7	第11回全体研究会	部会 研究のまとめ作業 個人カルテ作成 友愛プリント印刷
3	2	第12回研究推進委員会	今年度まとめ発表・出張報告会・来年度について
3	1 1	第12回全体研究会	今年度まとめ発表・出張報告会・来年度について
3	2 6	第13回研究推進委員会	来年度の校内研について

○引用文献 櫻本明美「説明的表現の授業ー考えて書く力を育てる」明治図書 1995

○参考文献 福岡県教育センター「思考力・判断力・表現力」の評価と授業づくりガイドブック 2011